

中干しの適期開始！過繁茂・籾数過剰を防止！

1 移植後の水管理（中干しまでの注意点）

- (1) 活着後は水深2～3cmの浅水管理とし、初期分けつの発生を促しましょう。
- (2) 昨年秋には「ひこばえ」の発生量が多かったことから、移植後のワキの発生状況に注意し、中干し開始時期より前にワキや表層剥離が発生した場合は夜間落水を実施しましょう。

2 中干し・溝切り

(1) 中干し・溝切りの方法

- ア 田植後25日頃から茎数を確認し、**目標穂数の7～8割**（例年生育過剰となるほ場は、目標穂数の6～7割）の茎数になったら、ただちに中干しを始めましょう。遅くとも田植後30日をめやすに中干しを始めましょう。
- イ 中干しに併せて、迅速な灌水や停滞水の排水のため溝切りを行いましょう。
- ウ 溝の間隔は8～10条おき（2.5m程度の間隔）、深さは10cm以上とし、溝の末端は必ず排水溝につなげましょう。



【中干し開始時期のほ場（60株植 14本/株）】

表 品種別中干し開始時期のめやす

品種	地域	田植時期 ※	目標穂数 (本/m ²)	中干し適期の茎数			中干し開始 時期のめやす	
				(本/m ²)	1株当たり茎数(本/株)			
					50株植	60株植		70株植
つきあかり	平坦地	5/ 5～10頃	340	270	—	15	—	6月5日頃～
	中山間地	5/15～20頃	320	260	—	—	12	6月10日頃～
こしいぶき	平坦地	5/10～15頃	380	300	—	17	—	6月5日頃～
	中山間地	5/15頃	360	290	—	16	14	6月10日頃～
コシヒカリ	平坦地	5/10～15頃	360	250～290	17～19	14～16	—	6月10日頃～
	中山間地	5/15以降	320	220～260	—	12～14	11～12	6月15日頃～

※田植時期は平均的な田植時期を示しています。各自の田植日から25日後がいつになるかを確認しておきましょう。

中干しの程度

- 中干しの程度は、田面に小ヒビ（幅約1cm程度）が入り、軽く足跡が残る状態まで行います。
- 例年倒伏するほ場や大豆跡等生育過剰となりやすいほ場は「強めの中干し」としましょう。



【中干しの程度は小ヒビが入る状態】

(2) 中干し終了のめやす

- ア 幼穂形成期（出穂の23～25日前頃）まで中干しを継続すると根域が狭くなり、高温年では品質が低下する場合があります。**遅くとも出穂期1か月前**（早生は6/25頃、コシヒカリは7/5頃）をめどに中干しは終了しましょう。
- イ 中干し終了後の湛水は根腐れや下位葉が枯れ上がりを生じやすくなるため、飽水管理としましょう。

3 病虫害対策

(1) いもち病

- ア 補植苗はいもち病の伝染源となるため、早期に除去しましょう。
- イ 以下の場合、本田施用の予防粒剤を施用してください。
 - 飼料用米等の多収性品種で田植時に箱施用の予防粒剤を施用していない場合。
 - コシヒカリ BL のほ場で、いもち病多発地に作付けし、箱施用の予防粒剤を施用していない場合。
- ウ 予防粒剤の施用時期は6月10日頃までとし、施用後は確実に止水した上で7日間は湛水状態を保ちましょう。また、施用時期は中干し時期と重ならないよう計画しましょう。

(2) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の密度を下げるには、イネ科を中心とする雑草が開花・結実する前の草刈りが有効です。5月下旬以降、3～4週間隔で草刈りを実施しましょう。